

# デジタル味方に本格始動

本紙「中日俳壇」選者の俳人高田正子さん(64)が岐阜市出身、川崎市在住が主宰を務める結社「青麗俳句会」が、年明けから本格的に始動した。結社誌「青麗」に写真を創刊し、アプリやウェブサイトを開設。紙とデジタルの連携で、活動を充実させる。

高田さんはこれまで、師匠の黒田杏子さんが主宰を務める「藍生俳句会」に所属していた。しかし黒田さ



## 中日俳壇選者 高田正子さん「青麗俳句会」

さんが昨年3月に84歳で亡くなり、同会も活動を終了。高田さんが8月に「藍生」の会員有志や自身の俳句講座の受講生と新しい結社を立ち上げ、結社誌創刊の準備を進めてきた。結社の名は高田さんの第3句集「青麗」に由来する。同会はインターネットを積極的に活用する方針だ。コロナ禍で進んだ句会のオンライン化は、地方在住者や外出が難しい会員が参加しやすい利点があった。そこで月1回の対面句会のほかに、隔月のオンライン句会を開き、上達や交流を促す。公式サイトには結社誌のデジタル版を載せ、会員が過去の分も自由に読むこ

## 隔月オンライン句会 交流促す

とができる。サイトは「動く俳誌」と位置付け、結社誌と連動した企画やウェブ独自の連載も検討する。1月14日に東京都内で発足記念パーティーがあり、結社誌の編集やイベント運営、事務、経理を担当する



「青麗俳句会」の発足記念パーティーで、編集や事務の中心を担う会員を紹介する高田正子さん(左から2人目)＝東京都台東区で

会員の紹介、獅子舞の演舞などがあった。高田さんは「黒田先生は『俳句は自力・他力・合力』とおっしゃっていた。結社も同じ。私一人だけではなく、皆で作りたい。会員一人一人が持つ色が混ざって、違う世界が見られれば」と展望を語った。

会員の金子恵美さん(67)＝愛知県西尾市は「中部出身の高田さんを応援したい。ネットを活用した新しい試みで、これからの俳句界を変えてくれるはず」と話した。

「青麗俳句会」は現在約200人が参加し、奇数月に「青麗」を発行。年会費は1万5千円で、30歳未満は7500円。問い合わせはホームページかメール＝mail@seirei-haiku.jpへ。(谷口大河)